

令和6年度第7回 感染症発生動向調査協議会

令和6年10月16日

月番：澤田 明(感染症全般)、石山 俊次(STI)

1 前月の感染症発生動向について（2024年第36週～39週・9月）

<全数把握対象疾患>

- 一類感染症の報告はなかった。
- 結核は20例あり、毎週コンスタントに報告された（前年比：122.1%，2019年比：72.2%）。
- 腸管出血性大腸菌感染症は、9例（O157：2例，O111：1例，その他：6例）報告された（前年比：252.2%，2019年比：61.1%）。
- 四類感染症の報告は、デング熱1例，レジオネラ症4例であった。
- 五類感染症
 - ✓ ウイルス性肝炎1例，カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3例，劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例，侵襲性肺炎球菌感染症3例，水痘1例，播種性クリプトコッカス症1例，百日咳2例の報告があった。

(STI)

- ✓ 後天性免疫不全症候群は3例（全て男性：無症候性キャリア2例，その他1例）の報告があり、本年累計は14例で全て男性であった。（前年同期累計12例）
- ✓ 梅毒は12例（男性7例，女性5例：20代4例は全て女性，30代～60代8例中7例は男性）の報告があり、本年累計は105例（前年同期累計99例）であった。全国の本年累計は10,766例と、早くも10,000人を上回っている。これは過去最多の報告数であった2023年の11,260例（10月4日時点）に次ぐ過去2番目に多い感染者数である。（2023年は最終的に15,078例）

<定点把握対象疾患>

- 前月と比較し増加傾向にある疾患
 - ✓ インフルエンザ（前月比：321.0%，前年同期比：23.1%，2019年比：317.4%）
 - ✓ 手足口病（前月比：150.3%，前年同期比：1801.0%，2019年比：563.2%）
 - ✓ マイコプラズマ肺炎（前月比：99.2%，前年同期比：2500.0%，2019年比：384.6%）----増加傾向にはないが，引き続き注視要
- 前月と比較し減少傾向にある疾患
 - ✓ 新型コロナウイルス感染症（前月比：43.8%）
 - ✓ ヘルパンギーナ（前月比：32.1%，前年同期比：48.7%，2019年比：43.7%）
- STIについて
 - ✓ 性器クラミジア感染症性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の発生動向に大きな変化はみられなかった。

2 検討すべき課題

<事務局から>

- 今冬のインフルエンザの流行について

3 情報提供（月番委員専門分野から）

国立感染症研究所は2019年から調査項目に性風俗産業の利用歴・従事歴を追加しているが、2024年7月17日に発表された数値を見ると、男性感染者で性風俗利用歴がある割合は40%、従事歴は2%となっており、女性感染者で性風俗従事歴ありの割合は34%、利用歴は3%であった。設問に対して「不明」「空欄」もあるので、実際の比率はより高くなる可能性がある。

4 その他（感染症対策推進課から）

（国通知・事務連絡）

- 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの供給等について
- 予防接種実施規則の一部を改正する省令の公布について
- 「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について
- ルワンダ共和国におけるマールブルグ病に係る注意喚起について
- デング熱の国内感染が疑われる症例の発生について
- マイコプラズマ肺炎に関する注意喚起について

（県公表資料）

- 日本脳炎患者の発生に伴う注意喚起

<検討結果>